

# 完了報告書

記入年月日 令和8年2月11日  
採択団体名 沼津市立長井崎小中一貫学校

## ■事業概要

基本情報	
事業名	防災アプリを活用した「課題解決型防災学習」の展開による地域防災力の向上
事業内容	事業内容①:地域防災情報に特化したアプリ開発 事業内容②:防災学習キックオフイベント
事業背景	<p>本地域は駿河湾の最奥部に面したリアス海岸沿いにあり、南海トラフ地震等の発生時には大津波による被災が予想される地域である。一方で水産業や観光業が盛んなため防潮堤整備が難しく、津波発生時には高台等への速やかな避難が住民には求められている。大規模災害時には、地域各所で交通寸断も予想され避難所生活の長期化が見込まれることから、各家庭では防災用品の備蓄や耐震への備えがなされている。地域住民同士のつながりは強く、防災への関心も比較的高いが、少子高齢化、過疎化が急激に進行しており、地域防災を中心的に担う人材の育成が課題となっている。令和7年夏のカムチャツカ地震に伴う津波警報の対応について、学校の児童生徒の半数の家庭は高台へ避難したが、残りの半数は避難行動を起こしていなかった。また、地域住民の情報から、高齢者等の中には、高台等への避難を諦めている方、避難地や避難所の状況から避難を躊躇する方が、一定数存在することが推測される。このような地域の実態と大規模災害時の公助が困難と予想される状況を踏まえると、地域住民の自助・共助意識の向上こそが一人でも多くの命を救うことにつながると考えた。そこで、地域住民一人一人が地域防災の現状を知り、主体的に課題解決に向けた意識を持ち、改善に向けた行動ができるようになることが重要であると考え、本事業に取り組むこととした。</p>
コミュニティ 設立の経緯	<p>長井崎小中一貫学校では、長年に渡って9年生(中学3年生)が総合的な学習の時間で「防災学習」を実施してきた。地域に密着した学習の成果は、校内の下級生に伝えることがメインとなり、周知に必要な費用や実施面での教職員の負担を考慮すると、地域住民に学習成果を伝えることが難しい状況であった。昨年度(令和6年度)は、外部団体の教育研究奨励に応募し、予算が確保できたため、9年生が考える「理想の避難所」をテーマに平日の午前に発表会を実施した。非常に見応えや学びのある発表会ではあったが、地域に広報をしたものの保護者以外の住民の参加は少なかった。令和7年度に入ってカムチャツカ地震が発生したこともあり、内浦・西浦地域でも再び防災意識が喚起され、自治会では地域住民へのアンケート調査も行われていた。このような中で、今年度の9年生の防災学習を生かして、地域住民の防災意識の向上を図ることで、学校として地域の防災力向上に貢献したいと考えた。そこで、学校が立案した本事業内容について、内浦連合自治会、西浦連合自治会、沼津市危機管理課の連携協力を依頼し、快諾を得たことで本コミュニティを設立し、内閣府に事業提案を行った。</p> <p>この経緯の中で、沼津市危機管理課に連携を打診した際、防災アプリの作成が沼津市の防災アプリと重なるという点が問題となった。しかし、あくまでも「地域に特化」「沼津市の公式アプリと重ならない機能」であることを丁寧に説明した。また、本アプリの機能の中には、危機管理課が目指している「避難支援者の避難計画」に関わる内容が含まれていることもあり、本事業への理解と協力をいただけることとなった。さらに、この説明によって、本事業内容が非常に検討されていると評価していただき、危機管理課の全面的な協力を得ることにつながった。地域においては、連合自治会長には昨年度の防災発表会を参観いただき、 「ぜひ、実施して欲しい」との快諾と、全面的な連携と協力の約束を頂いた。</p>

<p>本事業に関する過去の取り組み内容</p>	<p>上でも述べたが、長井崎小中一貫学校では9年生が「防災学習」に継続的に取り組んできた。昨年度は教育研究奨励金を得て、体育館に9年生が考える理想の避難所を作ることをテーマに総合的な学習の時間に取り組んできた。その際、地域の避難所である本校の設備や備蓄品などを、地域の防災に詳しい住民の方に教えていただいた。また、沼津市危機管理課に依頼をして、避難所運営ゲーム HUG を指導して頂いたり、能登半島地震で災害派遣に出向いた沼津市役所職員の方を招いて、当時の避難所の様子を教えていただいたりした。さらに、市役所の方を通じて、実際に被災をされた能登半島の方とオンラインでつなぎ、避難所の実態や苦勞、課題等を教えていただいた(テレビ取材も受けた)。こうした学習を積み重ねた9年生は、体育館全面を使って、自分たちの考える理想の避難所を作り上げた。スフィア基準について、電気の確保、災害時のトイレの在り方、温かい食事等、それぞれに実際の物品等を展示しながら、それぞれの説明ブースで、来場者にプレゼンテーションを行った。地域には「避難所を非・難所に」と銘打ったチラシを全戸配布し、地域の方も参観に来て「非常に勉強になった」と評価していただいた。これらの様子は本校の学校 HP、学校便りに掲載し、周知を図っている。</p>
<p>事業体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼津市立長井崎小中一貫学校:事業内容①の9年生のアプリ開発学習 3名の教職員 :事業内容②のイベント企画・運営 4名の教職員</li> <li>・内浦連合自治会・西浦連合自治会:事業内容①の9年生への地域防災学習への協力 15名</li> <li>・静岡大学教授:事業内容①の9年生防災学習の指導 :事業内容②の防災イベント講師、地域住民への指導、講評</li> <li>・沼津市危機管理課:事業内容①の防災アプリへの防災倉庫、備蓄品リスト提供 2名 :事業内容②の防災イベントへの協力、ブース出展</li> <li>・株式会社コサウエル:事業内容①のアプリ開発と9年生アプリ開発学習 3名</li> <li>・あおき屋株式会社:事業内容②のイベントの中心的な企画・運営・準備 1名 及び、当日のスタッフ24名</li> <li>・静岡大学学生防災ネットワーク:事業内容②の防災学習ファシリテーター 上記の当日スタッフに含む</li> </ul>
<p>全体スケジュール</p>	<p>&lt;10月中旬～11月下旬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月9日 採択通知</li> <li>・10月15日 コサウエル打合せ</li> <li>・10月17日 あおき屋打合せ</li> <li>・10月20日 沼津市危機管理課と教育委員会との打合せ</li> <li>・10月23日 静岡大学教授と打合せ</li> <li>・24日 内浦連合自治会への説明・9年生防災学習への協力依頼</li> <li>・30日 静岡大学教授による9年生への授業</li> <li>・31日 西浦連合自治会への説明・9年生防災学習への協力依頼</li> <li>・11月5日 9年生内浦地区調査</li> <li>・11月6日 9年生西浦地区調査</li> <li>・11月13日 9年生 能美防災のVR ゴーグル体験と講話</li> <li>・11月14日 9年生 防災アプリ学習 株式会社コサウエル</li> <li>・11月25日 あおき屋打合せ</li> <li>・11月30日 あおき屋とちらしの検討</li> </ul> <p>&lt;12月初旬～2月下旬&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月4日 ちらし入稿・発注</li> <li>・12月11日 9年生防災アプリへの地域防災情報データの入力</li> <li>・12月12日 静岡大学教授との打合せ</li> <li>・12月19日 中間報告書提出</li> <li>・12月26日 あおき屋と防災イベント参加者確認、打合せ</li> <li>・1月12日 内浦・西浦地域へのイベント協力の再度お願い</li> <li>・1月14日 あおき屋と防災イベントの確認</li> <li>・1月14日 静岡大学教授、学生防災ネットワークと当日のシミュレーションと打合せ</li> <li>・1月23日 防災イベント前日準備</li> <li>・1月24日 防災イベント当日、実施・運営</li> <li>・1月27日 防災アプリ周知用ちらしの入稿・発注</li> <li>・2月6日 本事業の成果物(A4版パンフレット)の完成・入稿・発注</li> <li>・2月12日 最終報告書提出</li> </ul>

事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校9年生が取材して得た「地域防災情報」の共有と、地域住民の「自助」「共助」意識を高めるコミュニケーションを促す機能を備えた防災アプリを開発する。</li> <li>・防災アプリを活用した防災学習イベントを実施することで、地域住民が、地域防災に関する課題意識を持ち、それを解決しようと積極的にコミュニケーションを図る「課題解決型の学習過程」を促すことで、「自助」「共助」の意識を高め、地域の防災力の向上を図る。</li> </ul>
事業成果全般 (教育提供者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災アプリについては、株式会社コサウェルが、本校の生徒の防災学習の成果、生徒が考えた機能のアイデア(防災クイズ)を反映して完成することができた。学習会やイベント参加者に周知し、端末にインストールしていただいた。</li> <li>・住民参加の防災学習会については、開発したアプリを用いて、静岡大学教授、静岡大学の学生の協力のもと、実施することができた。参加した約80名の地域住民の防災意識(自助・共助)を高めることができた。また、同時に防災体験イベントを、あおき屋株式会社の企画・運営で実施した。来場者は250名を超え、様々な体験活動をとらして防災意識の向上を図ることができた。</li> </ul>
事業目標全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の生徒は、防災アプリに活用する地域防災情報について調査や、防災アプリ機能のアイデアを検討することをとらして、地域住民の「自助」「共助」意識を高める情報提供の在り方を考えるとともに、災害から地域住民の命を守りたいという思いを高め、自身も地域住民の一人として地域の防災力向上に協力し、実際に行動しようとする態度を育む。</li> <li>・地域住民は、地域防災に関する「課題解決型の学習過程」の防災学習に参加することで、地域における「自助」「共助」の意識の向上の必要性を実感し、主体的に自身の防災行動の変容が生じる。</li> <li>・防災アプリを今後も継続的に活用することで、地域住民に、地域防災に関する情報の共有、課題解決に向けたコミュニケーションが生まれ、地域全体の防災力の向上が図ることができる。</li> </ul>
事業成果全般 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校中学生においては、地域住民の協力をいただきながら各地域の防災情報について現地調査を実施し、画像やテキストを用いて防災アプリに反映するデータを作成できた。また、防災アプリの機能検討では、防災に関する視点を持ちながら、中学生らしいアイデアを考え、開発業者に自分たちの考えを提供することができた。</li> <li>・学習会に参加した地域住民は、地域の防災対策について関心を高め、自分たちでできることを(自助)、地域としてできること(共助)の視点から、課題を考えることができた。また、同時に開催した防災学習イベントでは、VR ゴーグルによる地震津波体験、消防や自衛隊による自助、共助に関する体験を行うことができ、来場者の防災意識を高めることができた。</li> </ul>
展開できる 知見やノウハウ	<p>地域の防災力向上には、地域住民が地域防災に関する「情報共有」と「コミュニケーション」が必要であり、そのためのツール(本事業では防災アプリ)の導入とツールを活用する場の設定がポイントになる。また、ツールを活用する場面においては、地域住民に対して「自助」「共助」意識を高めることを目標とした、「課題解決型の学習過程」を取り入れた学習プログラムの内容が重要である。</p>
コミュニティ防災教育の重要な観点	<p>本事業実践をとらして、コミュニティ防災教育の重要な観点として、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①: 学習者である地域住民が、地域防災に関する「情報共有」を図ることで、地域防災の実態を捉えられるようにすること</li> <li>②: 地域防災の実態把握から生じた課題の解決について、地域住民による地域防災に関する「コミュニケーション」が成立するように促すこと</li> <li>③: ①の「情報共有」と②の「コミュニケーション」を含む、「課題解決型の学習過程」を設定し、主体的に解決を図ろうとする意識を高める学習を行うこと</li> <li>④: 上記について、本校の生徒が情報を集約して提供したり、防災学習のコミュニケーションを促す立場となったりすることで、子供達発信で地域住民の防災意識の向上を図ること</li> </ol> <p>の以上4点が、地域防災力の向上と改善につながると考える。</p> <p>そのためには、地域防災の実態の情報を誰が提供するのかが、提供された情報をもとに、コミュニケーションする場をどのように設定するのかが、コミュニティで検討し、関係機関と連携していくことが、まずは重要である。今後も、防災アプリを活用し、学校が旗振り役となり、地域の防災力の向上を推進していきたい。</p>

<p>残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域防災の情報を提供する部分については、地域の学校がその役割を担いやすいと考える。学校の総合的な学習の時間において、防災教育に取り組んでいる学校は多数あると思われる。本事業の成果を全国に展開していく際には、各地の学校の協力を得ることが重要である。</li> <li>・地域防災に関する「コミュニケーション」の場の設定や課題解決型の学習過程についても、学校の教員の力を借りることができれば良いが教員の業務は多忙である。教員に新たな業務として依頼すれば、教員の働き方改革という政府の方針に逆行しかねない。そこで、教員から学習過程のノウハウを学び、地域で防災学習をリードできるような人材を育成するシステムの導入とその推進への支援を検討すべきと考える。</li> <li>・上記の観点は、どのような種類の災害であっても生かすことができる視点であり、課題解決型の学習過程は、どのような学習にも活用でき汎用性が高い。各地域の応じた特色ある、工夫されたコミュニティ防災教育の取り組みも重要ではあるが、防災教育を行う上での一つのパターンとして周知し、活用されるようにしたいと考える。</li> </ul>
-------------	--

■事業内容

事業内容① 地域防災情報に特化したアプリ開発	
<p>事業内容①目標 (提供者側)</p>	<p>・本校9年生が取材して得た「地域防災情報」の共有と、地域住民の「自助」「共助」意識を高めるコミュニケーションを促す機能を備えた防災アプリを開発する。</p>
<p>事業内容①目標 (参加者側)</p>	<p>・本校の生徒は、防災アプリに活用する地域防災情報について調査や、防災アプリ機能のアイデアを検討することをとおして、地域住民の「自助」「共助」意識を高める情報提供の在り方を考えるとともに、災害から地域住民の命を守りたいという思いを高め、自身も地域住民の一人として地域の防災力向上に協力し、実際に行動しようとする態度を育む。</p>
<p>事業内容① 実施内容:静岡大 学村越教授による 防災に関する授業 (実施日:10/30)</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>本校の中学3年生(17名)の総合的な学習の時間において、静岡大学教授を招いて防災に関する授業を実施した。授業では、本地域の地理的状况から、今後想定される南海トラフ地震で想定される地域の被災状況について学んだ。また、地域住民の命を守るために知っておきたい、防災上の観点についても教えていただき、この後の実地調査で確認すべきことを学習した。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>参加した中学3年生は、改めて自分たちの地域における被災状の実際を学び、緊張感を高めることができた。また、今後予定している各地域の現地調査の視点も教えて頂き、一人でも多くの地域住民の命を守る重要な情報提供になることを実感し、真剣な表情で学んでいた。</p> </div> <div style="flex: 1;">   </div> </div>
<p>事業内容① 実施内容:内浦・西 浦地区の調査 (実施日:11/5・ 6)</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>11/5(水)は内浦地区、11/6(木)は西浦地区に中学3年生が出向き、8:00~11:30まで現地調査を実施した。現地調査では、地域住民の方から現状を教えていただいたり、実際に津波避難経路を歩いて危険箇所を確認したりした。両日も午後には、撮影してきた写真データを整理し、アプリに掲載するための必要な情報を検討した。</p> <p>■成果(参加者)</p> <p>現地調査を行った中学生(参加者)は、実際に地域の方から、防災対策の状況についてお話を伺ったり、津波避難路を歩いて危険箇所に気づいたりした。また、事前の静岡大学教授との学習を生かし、地域における様々な人が避難できること、昼間だけでなく夜間での地震災害の発生等も考慮すること等、しっかりと命を守る視点での現地調査を行うことができた。学校に戻ってからは、写真データの整理及び、地域住民に知らせたいことを調査グループごとに検討することができた。</p> </div> <div style="flex: 1;">   </div> </div>

事業内容①  
 実施内容: 中学3  
 年生 VR ゴーグル  
 体験と講話  
 (実施日: 11/13)

■具体的な取り組み内容

中学3年生の総合的な学習の時間において、防災体験イベントで利用する能美防災のVRゴーグルを体験する学習を行った。時間の関係でVRゴーグルによる地震・津波体験は3名しかできなかったが、他の生徒は大型モニターで体験者の見ている映像を視聴した。また、能美防災の担当者様からも、こうしたVR危機の開発にいたった経緯や防災への思いをお話しいただいた。

■成果(参加者)

VR体験をした生徒は、現実のような映像に驚き、声をあげるなど、実際の災害の模擬体験をすることができた。また、大型モニターで視聴した生徒も、迫力の映像と体験生徒の反応から、改めて地震津波災害の恐ろしさを実感することができた。さらに、担当者様のお話からも防災対策の重要性を改めて教えていただき、自分が学ぶことを地域に伝えていくことの重要性を改めて感じていた。



事業内容①  
 実施内容: 中学3  
 年生による防災ア  
 プリ機能の検討学  
 習  
 (実施日: 11/14)

■具体的な取り組み内容

本校の中学3年生の総合的な学習の時間において、株式会社コサウエルとアプリ機能を検討する学習を実施した。授業では、アプリに乗せたい機能をグループワークで検討し、紙面にまとめて提案を行った。また、防災アプリの名称についても検討した。

■成果(参加者)

生徒はこれまでの学習を生かし、紙面に思考ツールを用いてアイデアを出し合ったり、考えを整理したりして話し合い活動を行った。特に、前日のVRゴーグル体験での学習がグループワークでも生かされていた。スマホやICT機器を日頃から使っている世代のため、様々なアイデアが提案され、株式会社コサウエルの方からもアイデアを評価していただいた。



<p>事業内容① 実施内容:中学3年生による防災アプリのβ版ストア登録完了及び生徒の学習内容の記載開始 (実施日:12/22～)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 株式会社コサウェルより、防災アプリ「うらぼう」のβ版の登録完了とコメント記入機能が利用できるようになった旨の連絡を受け、沼津市教育委員会に生徒のクローブブック端末へのアプリインストールを依頼。生徒が冬休み中に入力できるようになった。</p> <p>■成果(参加者) 冬休み中で生徒は受験生ということもあり、内容まで十分検討はできなかったが、生徒はこれまでの学習の成果をもとに、アプリへの記入を行うことができた。アプリの名前は「うらぼう」となった。</p>	 <p>実際のアプリの画面</p>
<p>事業内容① 実施内容:防災アプリの機能、情報内容を確認し、アプリの完成、学習イベントでの利用 (実施日:1/24)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 株式会社コサウェルと、「防災アプリ「うらぼう」」に掲載データについて、最終確認。また、機能の確認を行い、アプリが完成。</p> <p>■成果(参加者) 防災イベント当日、参加者にインストールを促し、学習会ではアプリを用いて、グループワークを実施することができた。後日、インストール用チラシを作成し、地域に全戸配布した。</p>	<p>完成した防災アプリのインストール用二次元コード</p>   <p>Android                      iPhone</p>
<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 事業内容①は、既に実施していた総合的な学習の時間における「防災学習」に組み込んで実施したが、本事業の採択が10月となり、アプリ開発についての学習期間が短期間になったため、学校の教育活動や教育計画を変更しながら実施することになった。年度当初から実施できるような募集の在り方を検討いただきたい。</p> <p>また、現地調査を行うにあたっては、生徒の活動範囲が広く、様子の把握が困難な点が懸念される課題としてあがった。</p> <p>さらに、アプリの地図上に写真をマッピングする関係で、GPS 機能の搭載されたカメラが必要とされたこと、撮影者の意図が伝わるような構図の取り方などの撮影技能を生徒に十分に指導する時間をもつことができなかった。</p> <p>■乗り越えた方法 学校の教育計画の変更については、講師との日程調整行いなんとか対応することができた。生徒自身が見通しをもって、現地調査を行う学習活動にすることができた。</p> <p>GPS 機能を搭載したカメラのレンタル費用を、本事業の借料から支出できた点は良かった。しかし、調査グループの中にはカメラの GPS 機能をオンにしていなかったグループもあり、土日に再び撮影に行かせなければならないなどの課題が残った。</p> <p>また、学校では、生徒の実地調査中の突発的な事案に対応できるようにするため、生徒本人または家庭の携帯電話を携行させることとした。実際に学校への緊急連絡はなかったが、生徒の撮影してきた写真を見ても、教員には場所が分からないところが多く、その場から動けないような怪我をしたときに対応できるか不安が残った。</p>	
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>事業内容①については、そもそも地域に特化した防災アプリを作成するという点が、最も工夫した点である。そのために必要な学習内容を検討・計画して中学3年生の総合的な学習の時間の「防災学習」に組み込んで実施した。また、生徒の災害に対する地域防災への危機意識を高めるため、専門家(静岡大学教授)による指導、VR ゴーグルを用いた地震津波の疑似体験を取り入れた。</p>	
<p>事業内容① 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の本校の中学3年生の防災学習において、防災アプリを活用した地域防災力向上のための学習計画を検討・実施していくこと。そのため、地域とのさらなる連携を深めていきたい。</li> <li>・完成した防災アプリの維持管理について、情報の更新等は学校で行うようにするが、アプリのサーバー上での維持管理や今後の機能の追加等は株式会社コサウェル様に依頼する必要があり、費用をどう負担するかが課題である。行政の支援をお願いしたい。</li> </ul>	

事業内容② 防災学習キックオフイベント

<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<p>・防災アプリを活用した防災学習イベントを実施することで、地域住民が、地域防災に関する課題意識を持ち、それを解決しようと積極的にコミュニケーションを図る「課題解決型の学習過程」を促すことで、「自助」「共助」の意識を高め、地域の防災力の向上を図る。</p>	
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<p>・地域住民は、地域防災に関する「課題解決型の学習過程」の防災学習に参加することで、地域における「自助」「共助」の意識の向上の必要性を実感し、主体的に自身の防災行動の変容が生じる。</p>	
<p>事業内容② 実施内容:防災イベント周知用チラシの作成 (実施日:10月～12月)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 事業が採択されてから、イベントの内容、実施方法について、あおき屋株式会社と打合せ・検討を行った。(10/17、11/13、11/25は対面で、それ以外はメール等も用いて実施)</p> <p>■成果(提供者) 防災学習キックオフイベントの概要がかたまってきたことで、地域住民周知用のチラシを制作し、12/5に印刷を発注した。12/8には完成し、内浦、西浦連合自治会の協力のもと、地域の全戸に配布を行った。</p>	 <p>イベント周知用のチラシ</p>
<p>事業内容② 実施内容:防災イベント学習内容の検討 (実施日:12/12)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 イベントで行う防災学習の内容について、静岡大学教授と学生防災ネットワークの3名の学生と検討した。</p> <p>■成果(提供者) 防災学習イベントでの学習時間、課題解決学習の展開、必要なワークシート、用具等を検討。学生によるワークシートの作成、教授による学習展開案の作成、期限等を確認できた。</p>	<p>地域防災力を高める！防災アプリ活用ワークショップの流れ</p>  <p>このような学習展開を検討</p>
<p>事業内容② 実施内容:防災イベント学習内容の検討 (実施日:12/17)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 イベントで行う防災学習の内容について、12/12の静岡大学教授と学生防災ネットワークの打合せ内容をもとに、イベント当日のスケジューリング、会場準備、展示内容の検討を行った。</p> <p>■成果(提供者) 防災学習イベントで必要となるワークシート、用具等をリストアップ。来場者の動線や天候に伴う傘袋等準備、来場者の行動から想定される案内表示、駐車場の人員配置等を検討できた。</p>	 <p>イベント当日の車両動線検討図</p>

事業内容②  
実施内容:防災イベント内容の検討  
(実施日:12/26)

■具体的な取り組み内容  
防災学習以外のイベントでの展示やブース内容の詳細の確認、及び、新たに当日の展示を担当する高校生リーダーも参加して、検討を行った。

■成果(提供者)  
地域住民の防災学習会以外のイベント内容については概ね固まった。当日の展示についても、沼津市危機管理課、消防、自衛隊、その他業者、VRゴーグル、高校生展示などの詳細を検討できた。合わせて、前日準備の段取りも検討できた。

タイムスケジュール案

事業内容②  
実施内容:防災イベント学内容の確認  
(実施日:1/14 AM)

■具体的な取り組み内容  
現状の学習会参加者の把握と、学習会場の確認を行った。また、地域住民の学習会以外の防災イベントに関する協力展示、出店等の業者、取材のメディアの状況についても確認を行った。

■成果(提供者)  
防災学習への参加者の伸び悩みが見られたため、地域内の放送やメール配信を行った。前日までに学習会参加者が増え続けた。学習会以外の体験イベントについては、一般の方にも参加を開放することとし、本市の市長の SNS やブロガーの記事で告知することができ、当日の来場者の増加につながった。



参加団体・業者向けの資料の一部

事業内容②  
実施内容:防災イベント学習内容の検討・最終確認  
(実施日:1/14 PM)

■具体的な取り組み内容  
地域住民の学習会で行う学習の内容について、静岡大学教授と学生防災ネットワークの10名の学生と検討し、当日の学習会の進行についてシミュレーションを行った。

■成果(提供者)  
地域住民学習会の全体の学習時間や学習イベント参加者の予想される年齢構成等を検討したことで、2本立てで行う予定だった学習内容を、1本にすることにした。また、当日の学生によるファシリテーションの内容について、本校教諭からアドバイスをを行ったことで、当日の学習会でのスムーズなファシリテーションにつながった。

当日の学習会の配布資料

事業内容②  
実施内容:防災イベント学習の実施  
(実施日:1/24)

■具体的な取り組み内容  
前日から、あおき屋による会場準備を行われ当日のイベントを迎えた。10時から内浦地区住民対象の防災学習会、11時から14時まで一般参加可能な防災イベントの実施、13時30分からは西浦地区住民対象の防災学習会を実施した。

■成果(提供者)  
午前と午後の防災学習会には、地域住民約80名の方が参加した。また、来賓や視察、メディア取材の関係者も含めると、約100名の方に学習会場にお越しいただいた。学習会では、静岡大学教授の講話に引き続き、アプリの機能紹介を行った。その後、地域住民による地域防災、特に津波避難路の状況につい



学習会の様子



	<p>て、アプリで確認をしながら課題を挙げ、自分たちや地域でできることを検討した。静岡大学の学生のファシリテーションも効果的に行われ、高齢の住民同士で「今度、避難路を見に行こう」という声が聞かれるなど、参加された住民の防災意識の向上が感じられた。体育館で行われ防災イベントの展示やブースにも来場者が相次ぎ、駐車台数も総数で250台を超え、多くの方に防災に関する情報や体験を提供することができた。</p>	
<p>事業内容② 実施内容:防災イベント学習を反映した本事業の成果物(防災学習指導資料)の完成 (実施日:2/9)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 静岡大学教授の御協力をいただき、本校の防災学習の取り組みをもとに、防災学習の指導のねらいやポイント、具体的なワークシート等を掲載した「防災学習指導資料」を制作し、入稿・発注・製本を行った。</p> <p>■成果(提供者) 防災学習会での成果や課題も踏まえ、他校や他地区でも使えるような、汎用性のある実践的な学習指導計画を制作することができた。市内他校への配布や、資料を希望する学校等に配布を行っていく。</p>	 <p>成果物:本モデル地区の実践と学習展開例</p>
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 本校は市街地から離れているため、防災学習イベントを実施するにあたり、対面での打合せの時間の確保が課題である。 ごく短期間での学習イベント周知、参加者募集と、当日のイベントに地域住民等にお越し頂けるの心配が大きかった。 高齢者の防災アプリのインストールやスマホ操作全般に不安があり、学習会の時間を割かれてしまう恐れがあった。</p> <p>■乗り越えた方法 イベント実施に関する打合せ等は、電話やメールやSNSアプリを活用して、コミュニケーション量を埋めているが、相手に意図が上手く伝わらないこともあり、別に資料や写真画像を作成するなどして対応した。 イベントの周知、参加者募集については、各種の情報発信の媒体(SNS、ブロガー、地域放送、メール配信等)を行うと共に、地域自治会の会合やイベントでの参加や協力をお願いを、校長自ら行うことで、当日の学習会参加者数、来場者数につながった。 防災アプリのインストールや操作については、静岡大学学生と当日参加された30~40代の方の手助け、小中高校生にも支援をお願いすることで、スムーズな学習会の進行につながった。</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>防災イベントでは地域住民が学習する場として本校の教室を利用することで、「学習意識」を高めることにつなげようと考えた。また、教室に入る人数を把握する必要があるため、地域住民の事前参加登録制とした。学習内容を精査するため、事前にシミュレーションを行い、よりよい学習展開になるよう検討した。体験展示等のイベントは体育館と第2グラウンドを活用し、様々な団体の協力をいただき、バリエーションがある展示、体験イベントとなるように計画した。</p>	
<p>事業内容② 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発した防災アプリを活用した防災学習を行うためには、地域住民に広くアプリを周知し、インストールをしていただくことが必要である。地域自治会にも周知への協力を依頼していきたい。地域住民が広く利用することが、今後のアプリ活用、本校の防災学習の地域展開には欠かせないと思う。</li> <li>・作成した防災学習計画については、本校のホームページや教育委員会の情報発信等で、広く学校関係者に周知を図っていきたい。</li> </ul>	

【成果物】

令和7年度 内閣府コミュニティ防災教育推進事業  
沼津市立長井崎小中一貫学校のモデル地区実践と学校で使える具体的な学習展開例

(リンク先)

<https://swa.numazu-szo.ed.jp/numazu502/download/document/18240011?tm=20260210144018>

防災アプリ「うらぼう」インストール用2次元コード



Android



iPhone



令和7年度 内閣府

# コミュニティ防災教育推進事業

---

沼津市立長井崎小中一貫学校のモデル地区実践と  
学校で使える具体的な学習展開例

(監修) 静岡大学教授 村越 真

# 1. なぜ「コミュニティ防災」なのか？

## ▲ 迫る危機

発生が予測される南海トラフ巨大地震や気象変動に伴う風水害の激甚化など、多様な災害に見舞われる日本では、防災は市民生活の根幹です。しかし、ハード面の防災対策や公的支援（公助）には限界があります。

## 🏫 学校の課題

学校では熱心に防災教育を行っていますが、その成果が地域社会へ十分に展開されていません。子供たちの学びを「想定内」と「学校内」で終わらせず、地域住民の意識向上につながる仕組みが必要です。

## 2. 地域の実態 (実践モデル地区：静岡県沼津市長井崎校区)

- ✓ 高い災害リスク：  
リアス海岸沿いで、津波による被災が予想される地域。
- ✓ 社会的な課題：  
少子高齢化・過疎化が進行。  
高齢者の中には「避難を諦める」「躊躇する」層も存在。  
観光客など、他地域の住民の滞留もある。
- ✓ 目指す姿：  
公助が困難な大規模災害に対して、一人でも多くの命を救うための「自助」と「共助」意識の向上。



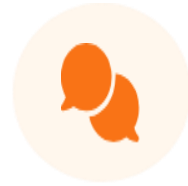
# 3. コミュニティ防災教育推進の3つのポイント



## 「情報共有」

まずは、災害に関する基本的な知識が必要です。その上で、学校が持つ地域防災の情報や災害時に想定される状況について「情報共有」します。

この「情報共有」が学習参加者の課題への気づきを高めます。



## 「コミュニケーション」

「情報共有」から生じた課題に関する「コミュニケーション」を図ります。その際、「一般的なマクロな課題」から「自分事化したミクロな課題」に落とし込むことが大切です。



## 「課題解決」の学習過程

自分事化したミクロな課題についての「コミュニケーション」とおして、自分でできること、自分たちでもできることを考えます。自分で「課題解決」できそうなことは何かを考える学習過程を取り入れることが重要です。

## 4. つなぐツール：防災アプリの開発



 CosaWell

### 学習成果を地域へ届ける架け橋

本校の9年生（中学3年生）の防災学習の成果を、地域住民と共有するために独自の防災アプリ「うらぼう」（内浦・西浦防災アプリ）を開発しました。

本事業では、このアプリを活用し、地域住民参加型の防災イベントを実施することで従来の「発表を聞くだけ」の会から、「参加・体験型」の学習の場を作り、自分事化する手がかりを得ます。

---

# 【実践例1】避難路の課題の自分事化

防災アプリのマップ機能を活用し、中学生の学びを地域の学びにつなげることで、地域住民が、自分事化したミクロな課題を把握し、自助ベクトルを生み出す課題解決学習の場を造ります。（巻末のワークシートを使用）

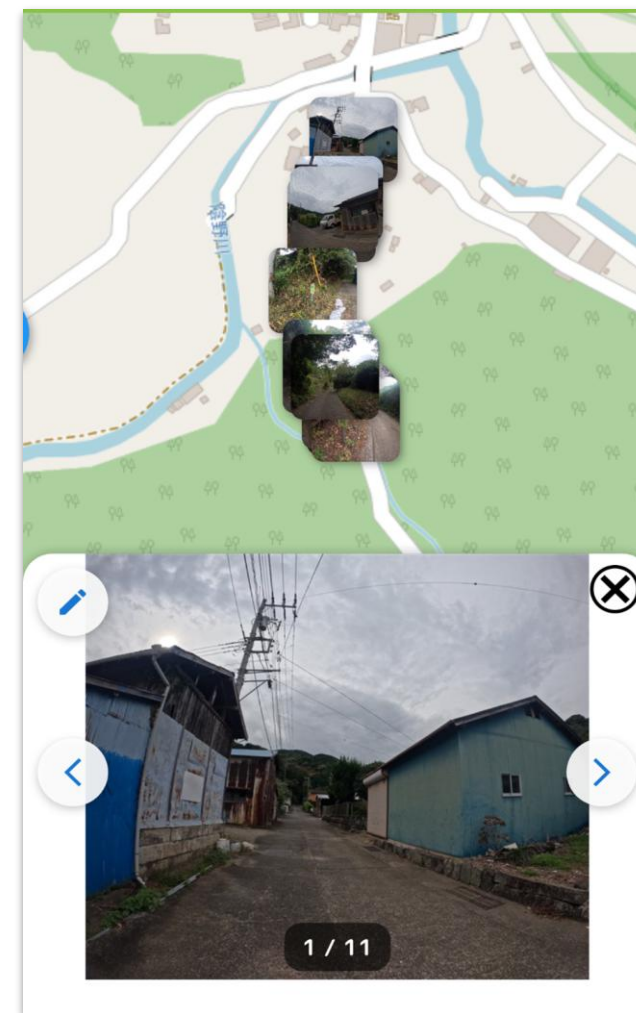
# 展開①：「情報共有」 課題への気づき・自分事化

## 1 災害が発生すると何が起こる？

災害は怖いと思っても、その時、いつ、何が起こるかは意外と知らないものです。たとえば、地震なら、風水害なら、どんなタイムラインで何が起こるか。学習に先立ち、災害に関する知識を確認します。※巻末のワークシート使用

## 2 My避難経路マップを使った課題の自分事化

防災アプリの「My避難経路マップ」から、自分や特定の「あの人が」困ることは何かを具体的に考えます。「避難は難しい！」というマクロな課題意識から、「自分にとって困るのか？」と、ミクロな課題意識にフォーカスします。防災アプリがなくても、ウェブにある360°パノラマビューサービスなどが活用できます。



# 展開②： 「コミュニケーション」 避難経路リスクに気づく

## 1 課題を把握し、付箋に記入・整理

災害時に発生することのタイムラインから、把握した避難経路上の課題を付箋等に記入し、4～5人のグループで、ワークシートに整理します。※巻末のワークシート使用

## 2 仮想設定による課題の発見

普段は課題を感じなくても、災害は都合のよい時に起きるとは限りません。「都合の悪い」場面を仮想したコミュニケーションを行うことで、課題の自分事化が進みます。



「夜中だったら？」

「雨の日だったら？」



「暗くて道が分からないかも・・・」

「滑る」「避難場所で濡れちゃう」・・・



# 展開③：「課題解決」 公助から自助共助による解決へ

## 1 ミクロな課題を自助ベクトルに位置づける

付箋に整理した課題を、以下の「自助ベクトル」に位置づけます。この際、「自分でできる」「自分でできない」ではなく、「少しでもできそうな事」をより右に位置づけるのがミソ。どんなことならできそうかに気づくことができれば、具体的な課題改善アクションにつながります。

公助

共助・自助

自力で対応できない

自力で対応できる

避難場所が崩れない？

擁壁整備は行政に依頼しよう

「避難場所での雨・寒さ対策」

点検なら地域でできる・・・

避難路が暗い

草ぼうぼう

地域で草刈りならできそう

懐中電灯を用意しよう

---

# 【実践例2】災害備蓄リストを作成しよう

「自助」の改善：防災アプリの「災害備蓄品リスト」機能を活用  
(巻末のワークシートを使用)

# 展開①：「情報共有」

課題を把握し、備蓄リストを作成・共有

## 1 課題の気づきと把握

防災タイムラインのワークシートから、災害時にはたくさんのトラブルが発生することに気付きます。


## 2 備蓄品を振り返る

災害時のトラブルに応じて、自分の日常生活で課題となることを把握した後、互いの防災備蓄品リストを作成することで、情報共有ができるようになります。



タイムラインで考える

発生直後/1日後/3日後/10日後・・・それぞれの時点で何が必要かを考えます。



地震災害のタイムラインと備蓄品でできること

発生直後	数分	数十分	数時間	1日	3日	10日	1ヶ月	3ヶ月	損害	対応できる備蓄品	
									建物が倒壊・転倒・落下物	けが・圧死	
									火災	けが・焼死	
									閉じ込め	体調不良	
									津波	けが・溺死	
									上水道断水	飲水不足	
									電話(通信)の途絶	連絡途絶	
									停電	灯り・冷暖房	
									交通機関の途絶	帰宅移動困難	
									下水道不可	し尿処理	
									避難所生活	生活の質低下	

# 展開②：「コミュニケーション」 新たな視点を得る

## 1 具体的な場면을想像した話し合い

互いの備蓄リストの共有から得た情報や、ファシリテーターの問いかけに合わせて、備蓄品に関するコミュニケーションを行います。具体的な課題の場면을想像して、自分に必要な備蓄品を考えたり、他者の備えを知ることで、新たな視点が生まれたりします。



(例) 「避難所生活の時、自分にとって何が一番困るでしょうか？」

「私はプライバシー、人の目が気にならないように過ごしたい」



「俺は音だな。安眠できない」



「スマホが充電できないと困るかな」



「うちはソーラーパネルとつなぐ蓄電池を用意してますよ！」



「それは知らなかった！便利そうですね」

防災備蓄品リスト			
備蓄品リスト			
新規登録			
ジャンル	品名	個数	消費期限
生活用品	寝袋	4	なし
衣類	防寒着	4	なし
生活用品	使い捨てカイロ	24	2030-10-10
生活用品	懐中電灯	2	2025-12-28
電子機器	発電機	1	なし
飲食物	アルファ米	20	2028-01-11
工具	ドライバーセット	1	なし
飲食物	飲料水2リットル	24	2030-06-10
生活用品	歯ブラシ	24	なし

# 展開③：「問題解決」 自助による改善アクションへ

## 1 ミクロな課題を自助ベクトルに位置づける

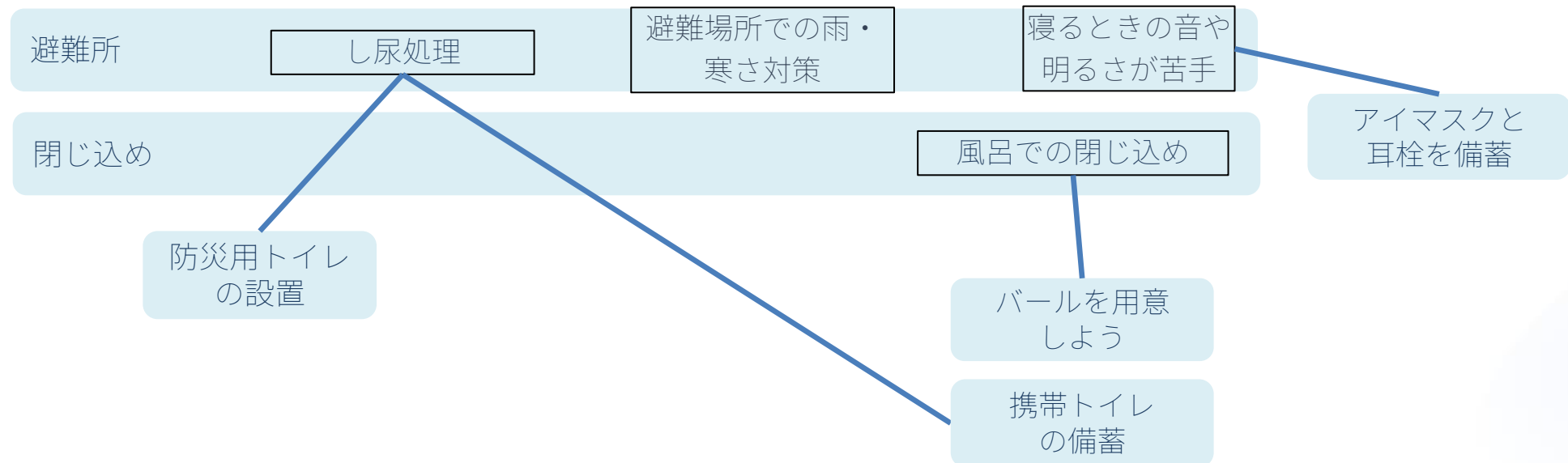
コミュニケーションを通じて出てきた、ミクロな課題を「自助ベクトル」の中に位置づけます。どんなことならできそうかに気づくことができれば、具体的な改善アクションにつながります。この時、他者の備蓄品リストが参考になるかもしれません。

公助

共助・自助

自力で対応できない

自力で対応できる



## 5. 「コミュニティ防災教育」 全ての学校で実践可能です！

本事例では「アプリ」を使用しましたが、紙のワークシートや既存のツールでも同様の教育効果が得られます。

### ✓ 重要なのはツールではなく「3つのポイント」

「情報共有」「コミュニケーション」による課題への気づき・把握 → 自分事化

→ 自助共助による課題解決の可能性と限界への気づきのプロセス（「課題解決型の学習過程」）が重要です。

### ✓ 生徒が防災教育のファシリテーターに

生徒が総合的な学習の時間を通して地域課題を自分事化するための情報収集を行い、それを地域で共有したり、地域住民と生徒と一緒に考えたりする機会をもつことで、地域全体の防災力の向上につながります。



自分で対応できること

協働して対応できること



# 地震災害のタイムラインと備蓄品でできること

発生直後 数分 数十分 数時間 1日 3日 10日 1ヶ月 3ヶ月

	損害	対応できる備蓄品
建物倒壊・転倒・落下物	けが・圧死	
火災	けが・焼死	
閉じ込め	体調不良	
津波	けが・溺死	
上水道断水	飲水不足	
電話(通信)の途絶	連絡途絶	
停電	灯り・冷暖房	
交通機関の途絶	帰宅移動困難	
下水道不可	し尿処理	
避難所生活	生活の質低下	

みなさんで  
内浦・西浦地域の防災力を高めよう！  
防災アプリde勉強会&  
防災体験フェスタ



Android



iPhone

このまちにいる、すべての人へ。  
長井崎小中一貫学校9年生と一緒に作った  
内浦・西浦地域の防災アプリ

【うらぼう】

暮らす人も、訪れる人も。  
もしもの時のために、今すぐインストール。